

転ばなイス

# RH-SAF-WHEEL 取扱説明書

851980-8900

前後安心車いす



## まえがき

このたびはフランスベッドの製品をお買いあげいただきまして、ありがとうございます。  
この取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくための、注意事項と使用方法を記載しています。

- 安全のため、必ずこの取扱説明書をよく読み、内容を十分理解してから使用してください。
- 取扱説明書を読んだ後は、いつでも必要なときに取り出せるように、所定の場所に保管してください。

### 製品を安全にご使用いただくために。

- 利用者最大体重は持ち物、衣類などを含めた重さです。体重制限を守って使用してください。
- 段差や凹凸などのある路面などを走行する時は、前のめりにならないように、注意して操作してください。

### ⚠使用前には必ず点検を行ってください。

- フレームにガタつきがないことを確認してください。
- 各部のネジなどにゆるみがないことを確認してください。
- タックルブレーキ、介助ブレーキにガタつき、ゆるみがないことを確認してください。
- タックルブレーキ、介助ブレーキがしっかりと効くか確認してください。
- 駆動輪のタイヤ、ハンドリムが破損していないことを確認してください。
- 駆動輪のタイヤの溝がなくなりかけていないことを確認してください。
- 駆動輪がしっかりと取り付けられていて抜けないことを確認してください。
- 駆動輪にガタつきがないことを確認してください。
- キャスターが劣化、破損していないことを確認してください。
- キャスターにガタつきがないことを確認してください。
- 専用クッション、バックサポートが破損していないことを確認してください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止して、販売店または弊社お客様相談室へ連絡してください。

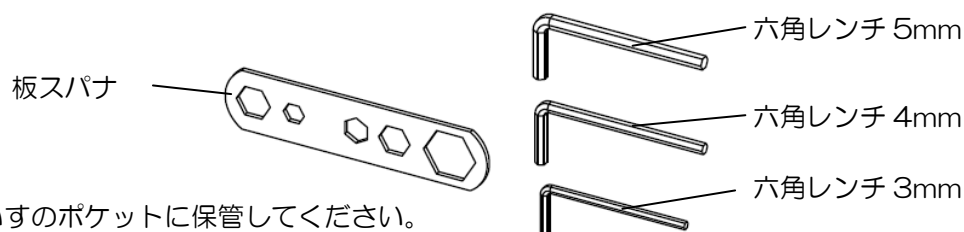
## 目次

1.	確認してください	3
2.	はじめに	3
3.	安全のために必ずお守りください	4
4.	各部の名称	7
5.	使用方法	9
5-1.	タックルブレーキのかけかた、解除のしかた（使用時）	9
5-2.	セーフティブレーキ	10
5-3.	セーフティフットサポート	10
5-4.	人が乗っていない状態で車いすを動かすとき	11
5-5.	介助ブレーキのかけかた	13
5-6.	車いすの開きかた	14
5-7.	車いすのたたみ方	19
5-8.	駆動輪の取り外し方、取り付け方	22
5-9.	フットサポートの高さ調整	24
5-10.	フットサポートの取り外し方、取り付け方	25
5-11.	レッグサポートの位置変更	26
5-12.	レッグサポートの取り外し方、取り付け方	27
5-13.	車いすの乗り方	28
5-14.	車いすの降り方	30
5-15.	メッシュシートの取り外し方、取り付け方	32
5-16.	段の上り下り（介助者の操作）	33
5-17.	急坂の上り下り（介助者の操作）	33
5-18.	溝を越える時（介助者の操作）	34
5-19.	段差、傾斜の横断（介助者の操作）	34
6.	保守・点検	35
7.	お手入れ方法、保管方法	36
8.	こんなときには	37
9.	製品の仕様	38
10.	耐用年数	39
11.	アフターサービス	39
12.	保証書	40

## 1. 確認してください

本製品購入後、はじめて梱包箱を開けるときに、下記の本製品がすべて入っていることを確認してください。

車いす本体、取扱説明書（保証書付き）、工具（板スパナ：1 個、六角レンチ 5mm、六角レンチ 4mm、六角レンチ 3mm）



※工具は車いすのポケットに保管してください。

## 2. はじめに

本製品は自走用車いすで、1人乗りです。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。本製品は、特別な身体保持具（ヘッドサポートなど）、座位の角度調整機構（リクライニング、ティルトなど）がなく、利用者がハンドリムを操作して駆動する自走用車いすです。日常生活用に設計されており、特別な使用目的（スポーツ、入浴など）のものではありません。また立ち上がり補助装置ではありません。

### 車いすの特徴（安全機能）

#### ●セーフティブレーキ

車いすからの移乗の際にタックルブレーキをかけ忘れても、利用者が立ち上がると自動でタックルブレーキがかかる安全機能です。次に座るときはタックルブレーキがかかった状態で座ることができます（座ってもブレーキは自動的に解除されません）。

※人が乗っていない状態でタックルブレーキを解除した場合は、タックルブレーキを必ずかけてから車いすに乗ってください。

#### ●セーフティフットサポート

フットサポートの上で立ち上がったり、前かがみになったりした場合でも体重でフットサポートが下がり、車いすが前に倒れにくくなる安全機能です。フットサポートを折りたたまずにそのまま立ち上がってしまう方、車いすに乗るときにフットサポートを踏んでしまう方の転倒リスクを軽減します。

※立ち上がり補助装置ではありません。

### 車いすの適合の目安

タックルブレーキを解除する操作が理解できる方  
フットサポートを折りたたむ操作が理解できる方  
体重40kg以上100kg以下の方（持ち物、衣類などを含めた重さ）  
専用クッションの奥にしっかりと腰掛けられる方  
アームサポートの跳ね上げ機能が不要の方  
バックサポート背張調節機能が不要の方  
スイングアウト機能が不要の方

※足こぎで使用する場合は、足こぎする側のフットサポートを折りたたんでください。






### 3. 安全のために必ずお守りください




#### 絵表示について


この取扱説明書および製品の表示では、製品を安全に正しく使用していただき、利用者への危害や財産への損害を未然に防止するために下記の絵表示をしています。



その指示と内容は、次のようになっています。


内容をよく理解してから本文を読んでください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が生命に関わるケガを負う可能性が想定される内容を示します。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。
	この記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 (～しないでください)
	この記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 (～してください)
 <b>絵表示</b>	この記号は、絵表示に対する行為を禁止する内容を告げるものです。

 <b>警告</b>	
<p>乗り降りの際および停止時には、必ず両側のタックルブレーキをかけてください。タックルブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や利用者の転倒事故につながるおそれがあります。タックルブレーキのレバーが止まる位置まで確実に操作してください。タックルブレーキをかけても床の材質によっては車いすが動く事がありますのでご注意ください。</p> <p>乗り降りの際に、折りたたんだフットサポートに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。</p> <p>使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、利用者が後方に転倒するおそれがあります。</p> <p>体重制限を守って使用してください。使用最低体重約 40kg を目安としています。体重が軽すぎる場合は、タックルブレーキが解除できない、セーフティブレーキがかからないおそれがあります。</p> <p>車いすに座る際は、必ず座面の奥までしっかりと腰掛けてください。タックルブレーキが解除できない、セーフティブレーキがかからないおそれがあります。また座面前方に座ると重心が前になるため正常な座位がとれなくなり、転落の原因になります。</p> <p>自力で操作不可能な坂道、凹凸や段差、溝のある場所の移動では、介助者による介助を行ってください。</p> <p>急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、介助ブレーキを使いスピードを落としてください。</p> <p>介助ブレーキは左右同時に握ってかけてください。片側のみだと転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。</p> <p>車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。傾斜のある場所での走行、駐車には十分注意してください。タックルブレーキをかけていても車いすが動いたり、転倒して重大な事故になる可能性があります。</p> <p>駆動輪のタイヤの摩耗に注意してください。駆動輪のタイヤが摩耗すると、タックルブレーキが効かなくなる場合があります。タックルブレーキの効き具合が悪いときは、販売店または弊社お客様相談室へ調整の依頼をしてください。</p> <p>乗り降りの際にはタックルブレーキのレバーに体重をかけないでください。タックルブレーキのレバーが破損、変形し、転倒するおそれがあります。</p>	
スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。	
	

走行中にフットサポートを踏まないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。	
グリップ、フレーム、バックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。 過度の荷物はバランスをくずし、転倒するおそれがあります。	
車いすの改造は行わないでください。 製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やケガにつながるおそれがあります。	
直射日光の当たる場所、高温になる場所（火気のある場所）、湿気の多い場所、雨のあたる場所に保管、放置しないでください。	
子供が遊びに使えるような場所に保管、放置しないでください。	

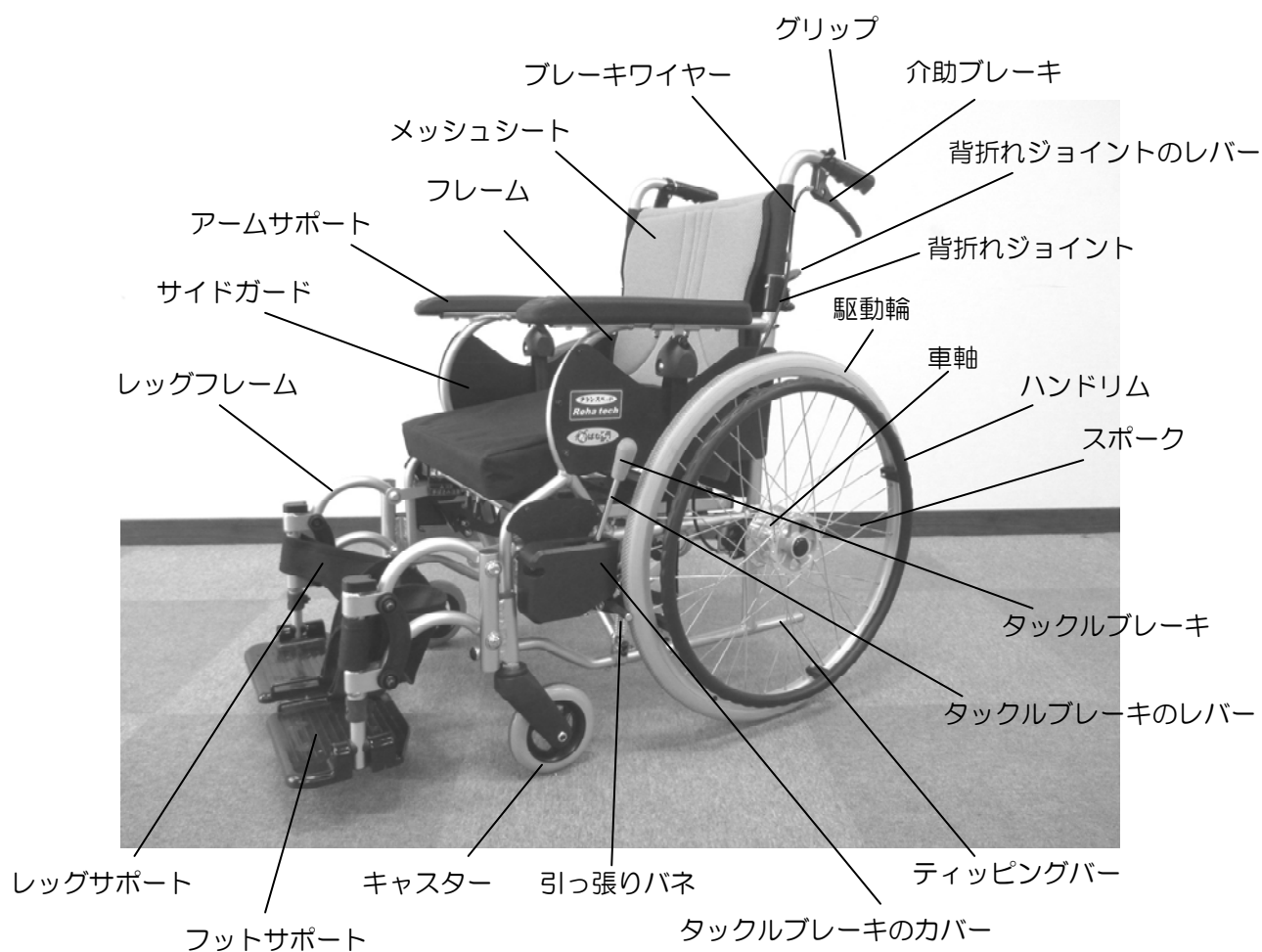
 注意	
最大耐荷重は 100kg（積載物も含む）です。	
起伏の激しい路面や毛足の長いじゅうたんの上などではスムーズな走行が妨げられる可能性があります。特に屋外での使用の際は段差や凹凸物に十分ご注意ください。	
背折れジョイント、レッグフレームなどの可動部の隙間に指や身体をはさまないように注意してください。	
タックルブレーキのカバーのすき間に指を入れないよう注意してください。 ケガをするおそれがあります。	
段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。 車いすの破損や故障の原因となります。	
操作中に異常な音や振動が発生したら、すみやかに使用を中止してください。事故やケガにつながるおそれがあります。	
走行中、足がフットサポートからはずれて、落ちないようにしてください。	
介助者は利用者が車いすに安全に座れているか確認をしてから操作を行ってください。	
介助者は走行中に利用者の体や衣服がタイヤ、スポーク、キャスター、地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないように注意して操作を行ってください。	
走行中、身体を乗り出したりして、走行の安全性を損なうことのないように注意してください。	
使用する前に駆動輪、キャスター、タックルブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。	
各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。 車いすが動きだし、事故やケガにつながるおそれがあります。	
車いすを持ち上げる時は腰痛に注意してください。1人で持ち上げるのが困難な場合は必ず2人以上で持ち上げてください（運搬時は専用クッション、座シート、駆動輪を取り外すことで重量を軽くすることができます）。	
車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。 車いすの破損や故障の原因となります。	
車いすを折りたたむ時は手を挟まないように注意してください。	
レッグフレームを持って車いすを持ち上げないでください。 レッグフレームが動いてバランスをくずすおそれがあります。	
センサーベルトおよびセンサーベルトローラーを持って車いすを持ち上げないでください。 部品が破損し、ケガをするおそれがあります。	

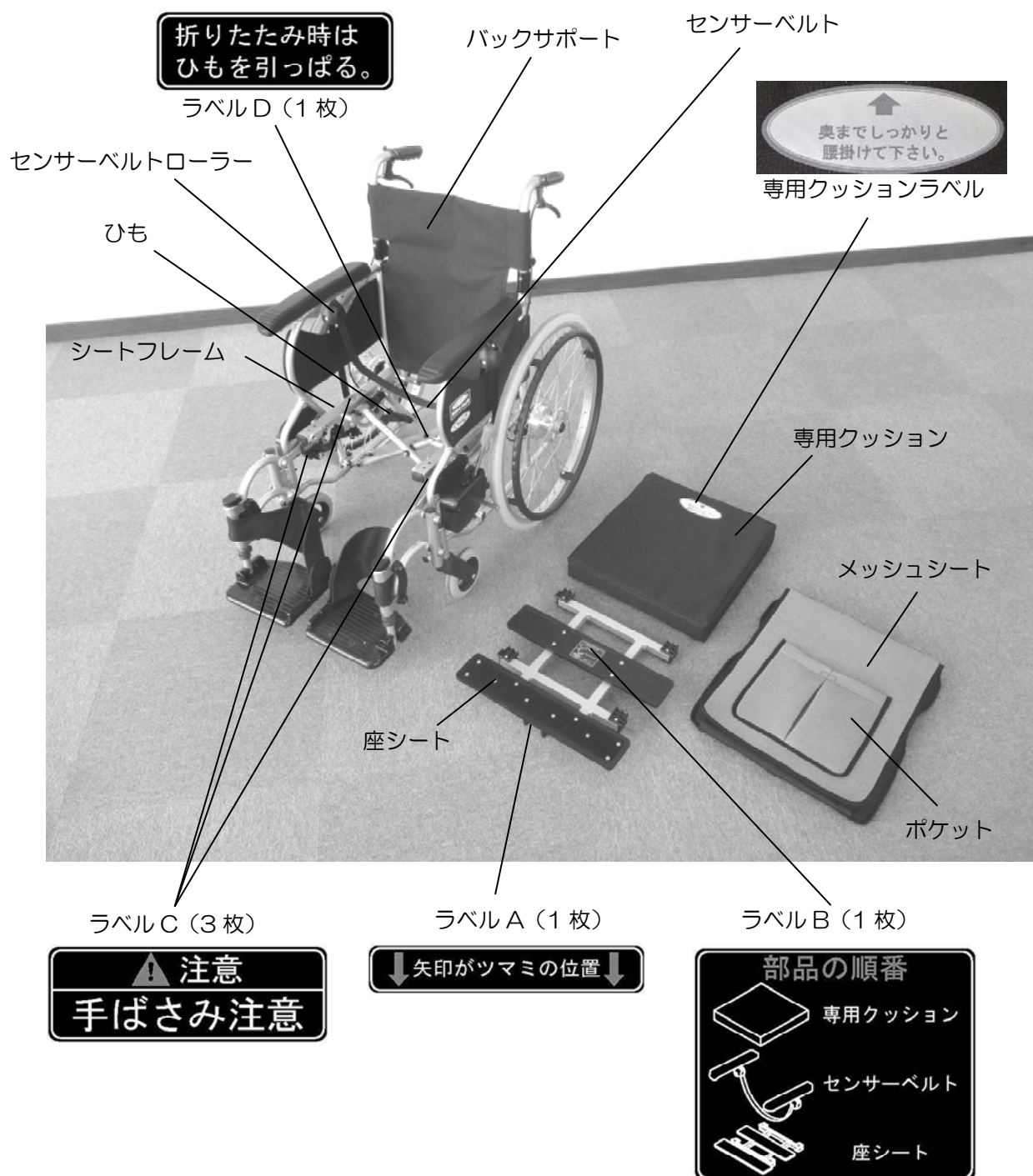
<p>この車いすは大人用です。12歳以下の子供、新生児、幼児などには使用させないでください。 また取扱説明書、注意ラベルの内容が理解できない方には使用させないでください。</p> <p>思わぬ事故の原因となります。</p>		
車いすを投げたり落としたりしないでください。		
この車いすは1人用です。2人以上の乗車や、車いすに搭乗しての移動、休息といった目的以外での使用はしないでください。		
専用クッション以外のクッションは使わないでください。専用クッションを取り外して使用しないでください。 セーフティブレーキが正常にかからないおそれがあります。		
利用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行なわないでください。 背折れジョイントの可動部で手や腕を挟むおそれがあります。		
車いすを開くときに、シートフレームを握って押し下げないでください。 手を挟んでケガをするおそれがあります。		
介助者は車いすに乗って介助をしないでください。		
倒れかかるような座り方はしないでください。車いすが転倒したり、破損する原因となります。		
タイヤを持ってこがさないで、必ずハンドリムでこいでください。手を挟んでケガをするおそれがあります。		
フットサポートの下には足を入れないでください。 足を地面でこすったり、フットサポートやキャスターなどに足をぶつけてケガをするおそれがあります。		
タックルブレーキのカバーのすき間にゴミなどを入れないでください。タックルブレーキが正常にかからないおそれがあります。		
アームサポート下に腕などを入れないでください。 ケガをするおそれがあります。		
専用クッションに体重をかけた状態でフットサポートを踏まないでください。フットサポートは下がらず破損の原因となります。		
フットサポートを片足で踏まないでください。バランスをくずして転倒するなど事故、ケガ、故障の原因となります。		
走行中にタックルブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながるおそれがあります。		
センサーベルトを故意に引っ張らないでください。 部品が破損するおそれがあります。		
フットサポートを折りたたむときは、素足では行わないでください。 ケガをするおそれがあります。		
専用クッションの下に手や指を入れないでください。 ケガをするおそれがあります。		
シンナー、ベンジンなどの溶剤は、使用しないでください。 製品を傷めるおそれがあります。		



## 4. 各部の名称

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。





## 5. 使用方法

### 5-1. タックルブレーキのかけかた、解除のしかた（使用時）

- (1) 利用者が、両側のタックルブレーキを手前に引いてかけます。タックルブレーキを前方に戻すと解除されます。



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）



タックルブレーキ（解除）

#### ⚠ 警告

乗り降りの際および停止時には、必ず両側のタックルブレーキをかけてください。タックルブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や利用者の転倒事故につながるおそれがあります。タックルブレーキは、タックルブレーキが止まる位置まで確実に操作してください。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道などの傾斜がある場所では、タックルブレーキを使用しても車いすが動く場合があります、転倒などの事故につながるおそれがあります。

駆動輪のタイヤの摩耗に注意してください。駆動輪のタイヤが摩耗すると、タックルブレーキが効かなくなる場合があります。タックルブレーキの効き具合が悪いときは、販売店または弊社お客様相談室へ調整の依頼をしてください。

乗り降りの際にはタックルブレーキに体重をかけないでください。タックルブレーキが破損・変形し、転倒するおそれがあります。

走行中にタックルブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながるおそれがあります。



#### ⚠ 注意

タックルブレーキをかけていても、強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので十分注意してください。



## 5-2. セーフティブレーキ

- (1) 車いすからの移乗の際にタックルブレーキをかけ忘れても、利用者が立ち上がると自動でタックルブレーキがかかる安全機能です。次に座るときはタックルブレーキがかかった状態で座ることができます（座ってもブレーキは自動的に解除されません）。  
※人が乗っていない状態でタックルブレーキを解除した場合は、タックルブレーキを必ずかけてから車いすに乗ってください。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ（固定）

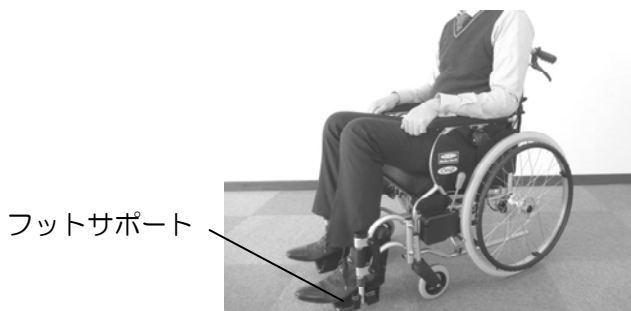
### 警告

座面後方の奥までしっかり腰かけない（体の重心が前）場合、セーフティブレーキが機能しなくなります。



## 5-3. セーフティフットサポート

- (1) フットサポートの上で立ち上がったり、前かがみになったりした場合でも体重でフットサポートが下がり、車いすが前に倒れにくくなる安全機能です。フットサポートを折りたたまずにそのまま立ち上がってしまう方、車いすに乗るときにフットサポートを踏んでしまう方の転倒リスクを軽減します。  
※立ち上がり補助装置ではありません。



フットサポート



### 警告

座面後方の奥までしっかり腰かけない（体の重心が前）場合、フットサポートを踏んでもセーフティフットサポートが機能しなくなります。必ず座面後方にお尻がくるように奥までしっかりと腰掛けてください。



### 注意

車いすから乗り降りの際、フットサポートを折りたたまずに上に乗っても車いすは転倒しませんが、この動作を推奨するものではありません。



専用クッションに体重をかけた状態でフットサポートを踏まないでください。フットサポートは下がりず破損の原因となります。

フットサポートを片足で踏まないでください。バランスをくずして転倒するなど事故、ケガ、故障の原因となります。

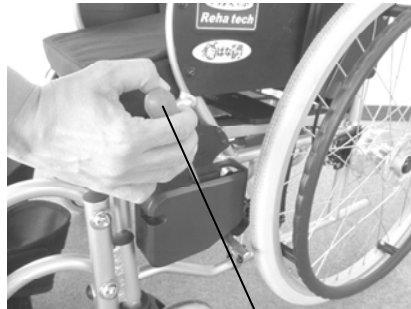


## 5-4. 人が乗っていない状態で車いすを動かすとき

- (1) 両側のタックルブレーキを前方に戻すと解除されます。人が乗っていない状態でタックルブレーキを解除する際は、レバー操作が重くなります。またタックルブレーキを解除しますと、パーンという大きな音がしますが、異常ではありません（車いすを折りたたんでいる状態でタックルブレーキを解除した場合は音がより大きくなります）。



タックルブレーキ（固定）

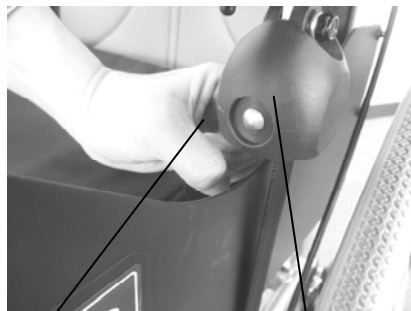


タックルブレーキ

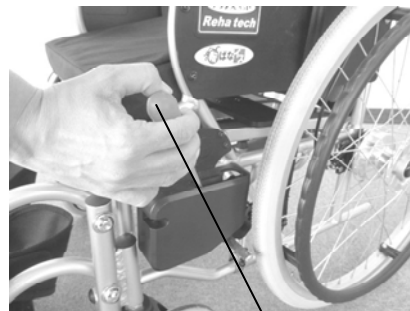


タックルブレーキ（解除）

- (2) タックルブレーキの解除音が気になる場合は、センサーベルトローラーの下のセンサーベルトを引っ張りながらタックルブレーキを解除すると音がしません。



センサーベルト

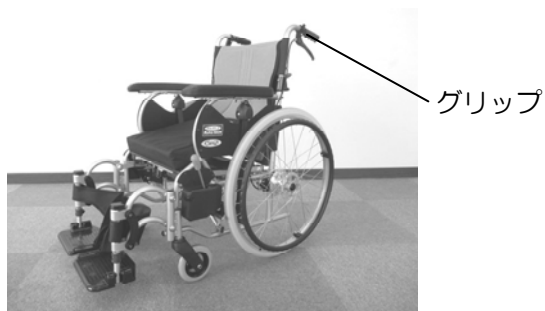


タックルブレーキ

センサーベルトローラー

⚠ 注意	
手動でタックルブレーキを解除した場合は、タックルブレーキがかかっている状態になります。再び、車いすに乗る場合は、必ずタックルブレーキをかけてください。自動でタックルブレーキはかかりません。	⚠
折りたたみ時にタックルブレーキの解除を行うときは、センサーベルトの跳ね上がりに注意してください。	
人が乗っていない状態でタックルブレーキを解除しますと、パーンという大きな音がしますが、異常ではありません	

- (3) グリップを上げた状態にします。グリップを押して車いすを動かします。



- (4) 車いすを折りたたんだ状態で動かす場合は、シートフレームを押してフットサポートを浮かせた状態で動かしてください。



シートフレーム

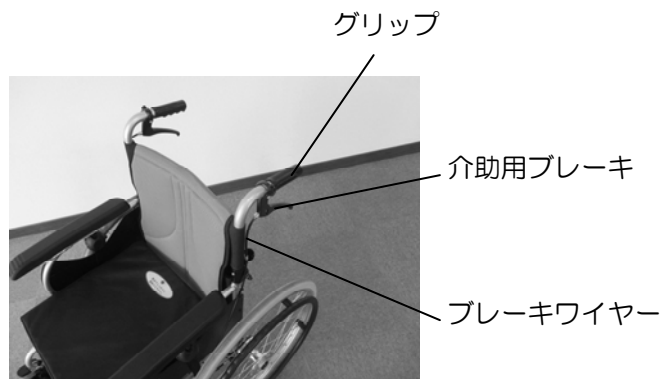


フットサポート  
(浮いた状態)

⚠ 注意		
<p>フットサポートが下がっている状態で車いすを動かさないでください。床にキズがつくおそれがあります。</p>	<div data-bbox="807 1167 1051 1350"> </div> <div data-bbox="1070 1167 1139 1234"> <p>×</p> </div> <div data-bbox="1070 1294 1331 1361"> <p>フットサポート (下がっている状態)</p> </div>	

## 5-5. 介助ブレーキのかけかた

- (1) 介助者が、左右のグリップと介助ブレーキを一緒に握ればブレーキがかかり、離せば解除します。



⚠ 警告	
介助ブレーキは左右同時に握ってかけてください。片側のみだと転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。	⚠
急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、介助ブレーキを使いスピードを落としてください。	
スピードは出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。	⊘

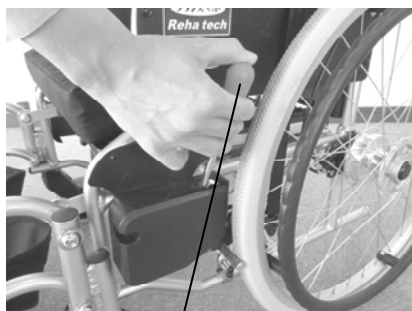
⚠ 注意	
ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に点検してください（交換の目安：ほつれ、サビが発生したとき）。	⚠
介助ブレーキの握りしろが多くなったり、左右が違ってきたらブレーキワイヤーの調整を行ってください。	
介助ブレーキをかけた状態で坂を下りないでください。故障の原因になります。	⊘
介助ブレーキは補助として使用し、駐車ブレーキとして使用しないでください。	

## 5-6. 車いすの開きかた

- (1) 両側のタックルブレーキをかけます。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）

### ⚠ 注意

必ずタックルブレーキをかけて操作を行ってください。タックルブレーキをかけずに操作を行った場合、車いすが動くなど思わぬ事故の原因となります。



- (2) 両側のグリップを上に戻します。背折れジョイントがカチッと音がすることを確認してください。



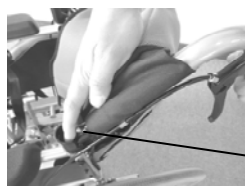
グリップ



背折れジョイント

### ⚠ 注意

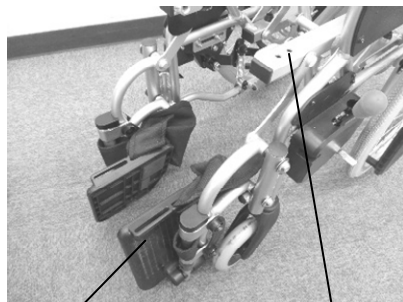
背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。



背折れジョイント



- (3) シートフレームを押してフットサポートを浮かせます。



フットサポート  
（下がっている状態）

シートフレーム



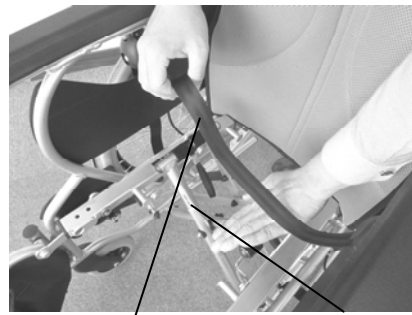
フットサポート  
（浮いた状態）

- (4) グリップを持って、軽く左右に開きます。片側の駆動輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。センサーベルトがほかの部品に引っかからないように持ち上げてシートフレームを手の平で押して車いすを広げます。



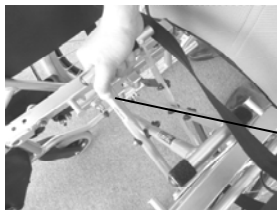
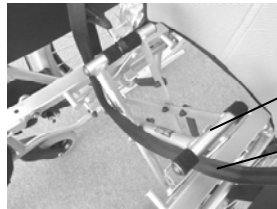
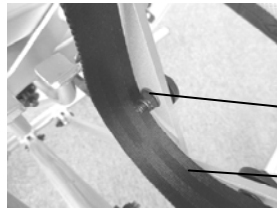
グリップ

片側の駆動輪を浮かせる

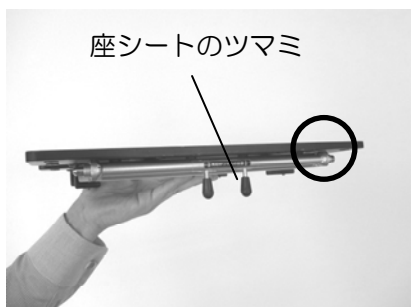


センサーベルト

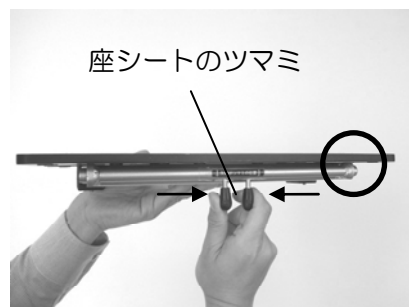
シートフレーム

⚠ 注意		
シートフレームを握って押し下げないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。	 <p>×</p> <p>シートフレーム</p>	⊘
センサーベルトをシートフレームに挟んだ状態でシートフレームを押し下げないでください。故障の原因となります。	 <p>×</p> <p>シートフレーム</p> <p>センサーベルト</p>	
センサーベルトをナットに挟んだ状態でシートフレームを押し下げないでください。故障の原因となります。	 <p>×</p> <p>ナット</p> <p>センサーベルト</p>	

- (5) 座シートのツマミをつまむと、座シートのピンが引っ込みます。



座シートのツマミ

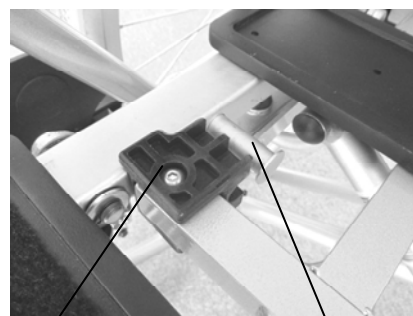


座シートのツマミ



座シートのピンが引っ込む

- (6) センサーベルトを持ち上げて、座シートをシートフレームの上にのせます。シートフレームのピンの位置に座シートのブラケットを合わせます。



座シート シートフレーム センサーベルト

座シートのブラケット シートフレームのピン

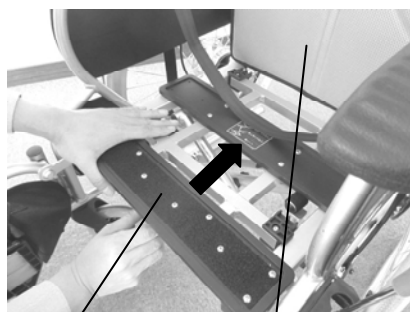
- (7) 座シートを手の手で押し下げます。フットサポートは浮きます。



座シート

フットサポートが浮く

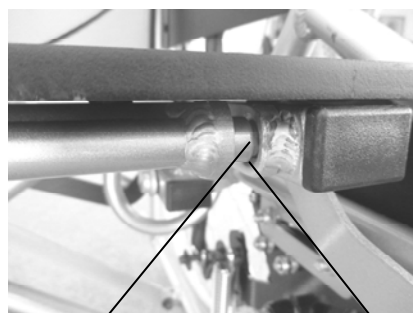
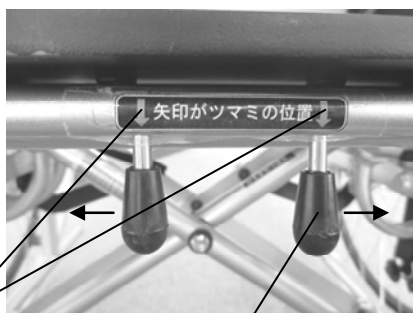
- (8) 座シートのツマミをつまみながら、座シートをバックサポート側にスライドさせます。



座シートのツマミ



座シート バックサポート

- (9) 座シートのツマミを外側に広げて、矢印の位置に合わせます。座シートのピンがシートフレームの穴に入ります。座シートが前後にずれないことを確認します。

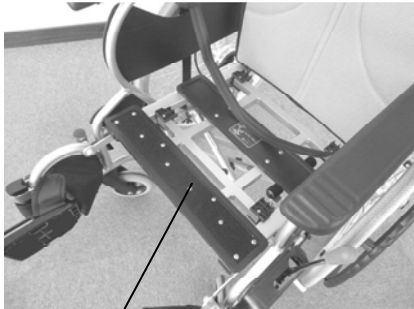


矢印 座シートのツマミ

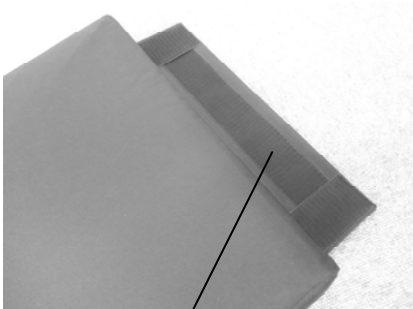
座シートのピン シートフレームの穴

<div style="text-align: center;">  <b>注意</b> </div>		
座シートのツマミが矢印の位置にあり、座シートを前に引っ張っても外れないことを必ず確認してください。座シートのツマミが矢印の位置にない場合、座シートが外れておもわぬ事故やケガにつながるおそれがあります。		

(10) 座シートの面ファスナーと専用クッションの面ファスナーの位置を確認します。

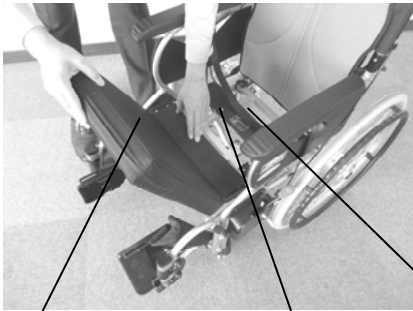


座シートの面ファスナー



専用クッションの面ファスナー

(11) 専用クッションを座シートの中心にくるようにして、専用クッションの面ファスナーのふちを座シートの面ファスナーのふちに合わせて、それぞれを貼り合わせてください。専用クッションを座シートにのせてください。このときセンサーベルトの上に専用クッションがのるようにしてください。専用クッションは座面後方が少し上がって斜めの状態になります。




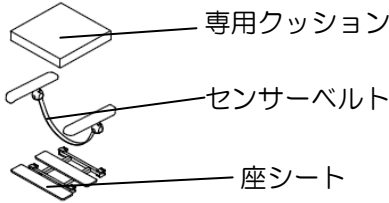

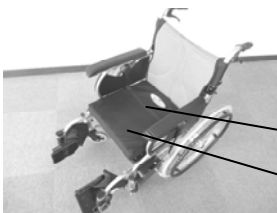

専用クッション

座シート



センサーベルト

専用クッション

<div style="text-align: center;">  <b>注意</b> </div>		
部品は下から座シート、センサーベルト、専用クッションの順番で組み立ててください。誤った順番で組み立てるとセーフティブレーキ（利用者が立ち上がると自動でタックルブレーキがかかる）が機能しなくなります。	 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-end; margin-top: 10px;"> <div>専用クッション</div> <div>センサーベルト</div> <div>座シート</div> </div>	
専用クッションがしっかりと取り付けられていることを確認してください。走行中にはずれると事故、ケガの原因となります。		
専用クッションの上にセンサーベルトをのせないでください。セーフティブレーキ（利用者が立ち上がると自動でタックルブレーキがかかる）が機能しなくなります。	 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-end; margin-top: 10px;"> <div>センサーベルト</div> <div>専用クッション</div> </div>	

- (12) 両側のフットサポートを内側にたおして広げます（フットサポートは利用者が車いすに乗ってから広げてください）。



フットサポート



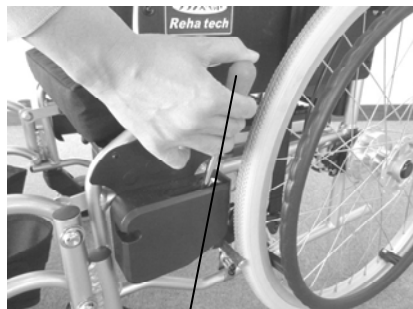
フットサポート

## 5-7. 車いすのたたみ方

- (1) 両側のタックルブレーキをかけます。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）

- (2) 両側のフットサポートを外側に倒してたたみます。



フットサポート



フットサポート

- (3) 専用クッション後方部を軽く持ち上げ、面ファスナーをはがし、専用クッションを座シートから取り外します。専用クッション本体のみを持って引っ張らないでください。



専用クッション



専用クッション

座シート

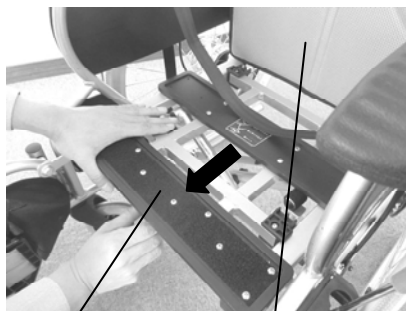


センサーベルト

- (4) 座シートのツマミをつまみながら、座シートを手前側にスライドさせます。座シートをシートフレームから取り外します。



座シートのツマミ



座シート

バックサポート



- (5) センサーベルトを持ち上げて、ひもを引っばります。  
※センサーベルトは引っ張らないでください。



ひも

センサーベルト



⚠ 注意		
センサーベルトを引っ張らないでください。故障の原因となります。	 <p>センサーベルト</p>	

- (6) 左右のアームサポートを外側から内側に押し、車いすを折りたたみます。専用クッションと座シートは、センサーベルトをよけて配置してください。




アームサポート

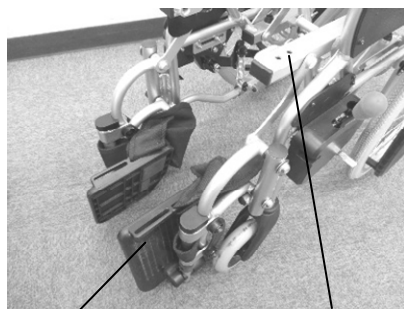


座シート

専用クッション

⚠ 注意	
取り外した座シート、専用クッションを落とさないように注意してください。事故、ケガ、故障の原因となります。	

- (7) シートフレームを押してフットサポートを浮かせます。



フットサポート

シートフレーム



フットサポートが浮く

- (8) 背折れジョイントのレバーを下げ、グリップを後方に倒します。同様に反対側のグリップを後方に倒します。



背折れジョイントのレバー

グリップ



背折れジョイント

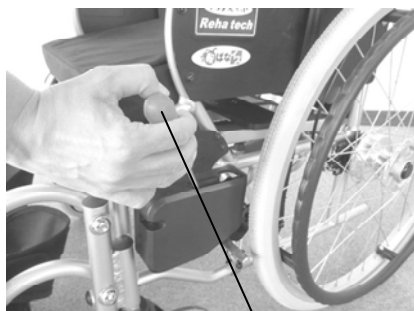
## 5-8. 駆動輪の取り外し方、取り付け方

車のトランクなどに収納する目的で駆動輪の取り外しが可能となっています。

- (1) 両側のタックルブレーキを解除します（タックルブレーキを解除しないと駆動輪が外れません）。



タックルブレーキ（固定）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（解除）

- (2) 片方の手で車いす本体を少し持ち上げて傾け、もう一方の手で駆動輪中心部のゴムキャップを押し、そのまま駆動輪を外側へ引き抜きます。



駆動輪中心部のゴムキャップ

駆動輪



- (3) 同じ手順で反対側の駆動輪も外します。



駆動輪中心部のゴムキャップ

駆動輪



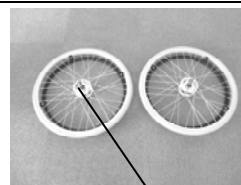
- (4) 駆動輪を取り付ける場合は、反対の手順で行ってください。

## ⚠ 注意

車のトランクなどに収納する際は、各突起部でキズをつけないように注意してください。



突起部



突起部

取り外した駆動輪のシャフトにゴミが付着すると、取り付け時に支障をきたすおそれがあります。ゴミが付着した場合は、ゴミを取り除いてください。

駆動輪とフレームの間、スポークの間に指を挟まないように注意してください。

駆動輪を取り外すときは必ず両側とも取り外してください。片側だけに駆動輪を装着した状態での使用は危険です。

ハンドリムにキズがある場合は紙ヤスリなどで滑らかにしてください。  
手を切るおそれがあります。

車いすに駆動輪を取り付けた後、はずれないことを確認してください。走行中に駆動輪がはずれると思わぬ事故やケガの原因となります。

駆動輪を取り付け時にカチッという音がして、確実に取り付けられたことを確認してください。

駆動輪を取り付けた後は、ガタ、ゆるみ、スポークの曲がりなどがないことを確認してください。

タイヤの摩耗を確認し、タイヤの溝がなくなりかけたら交換してください。



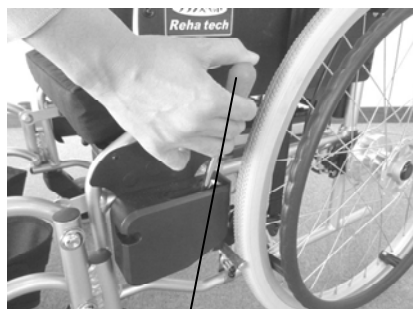
## 5-9. フットサポートの高さ調整

フットサポートは 15mm の間隔で 2 段階の高さに調整することができます。  
使用する工具：六角レンチ（対辺 4mm）

- (1) 両側のタックルブレーキをかけます。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）

### ⚠ 注意

必ずタックルブレーキをかけて操作を行ってください。タックルブレーキをかけずに操作を行った場合、車いすが動くななど思わぬ事故の原因となります。



- (2) フットサポートを広げた状態で、六角レンチ（対辺 4mm）で六角穴付きボタンボルトを取り外します。



フットサポート



六角レンチ（対辺 4mm）



六角穴付きボタンボルト

- (3) フットサポートの高さを変更します。六角穴付きボタンボルトを穴に差し込んで六角レンチ（対辺 4mm）で締めつけて固定します。反対側も同様の手順で行います。



六角穴付きボタンボルト



六角レンチ（対辺 4mm）

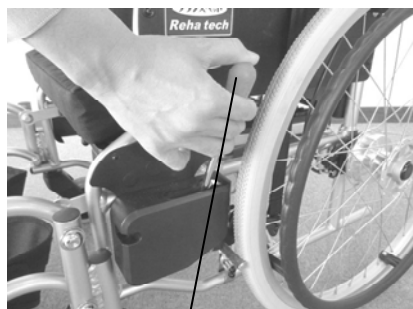
## 5-10. フットサポートの取り外し方、取り付け方

フットサポートを取り外すことができます。  
使用する工具：六角レンチ（対辺 4mm）

- (1) 両側のタックルブレーキをかけます。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）

### ⚠ 注意

必ずタックルブレーキをかけて操作を行ってください。タックルブレーキをかけずに操作を行った場合、車いすが動くななど思わぬ事故の原因となります。



- (2) フットサポートを広げた状態で、六角レンチ（対辺 4mm）で六角穴付きボタンボルトを取り外します。



フットサポート



六角レンチ（対辺 4mm）



六角穴付きボタンボルト

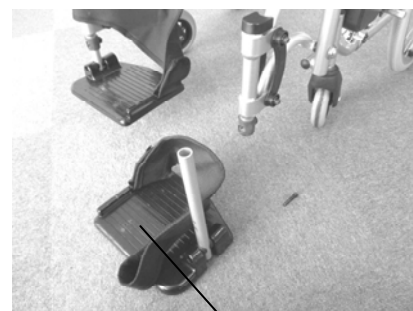
- (3) フットサポートを取り外します。レッグサポートの面ファスナー（レッグフレーム側）をはがして、レッグサポートを取り外します。取り外したネジはなくさないように大切に保管してください。



フットサポート



レッグサポートの面ファスナー



フットサポート

- (4) フットサポートを取り付ける場合は、反対の手順で行ってください。

## 5-11. レッグサポートの位置変更

レッグサポート（足を後ろに落とさないための布地ベルト）の位置を変更することができます。

- (1) レッグサポートの面ファスナー（フットサポート側）をはがして、レッグサポートを取り外します。



レッグサポート



レッグサポートの面ファスナー



- (2) レッグサポートの位置を変更して、レッグサポートの面ファスナーを貼り合わせます。



レッグサポート



レッグサポートの面ファスナー



## 5-12. レッグサポートの取り外し方、取り付け方

レッグサポート（足を後ろに落とさないための布地ベルト）は取り外すことができます。

- (1) レッグサポートの面ファスナー（フットサポート側）をはがして、レッグサポートを取り外します。



レッグサポート



レッグサポートの面ファスナー



- (2) レッグサポートの面ファスナー（レッグフレーム側）をはがして、レッグサポートを取り外します。



レッグサポートの面ファスナー



レッグサポート

- (3) レッグサポートを取り付ける場合は、反対の手順で行ってください。

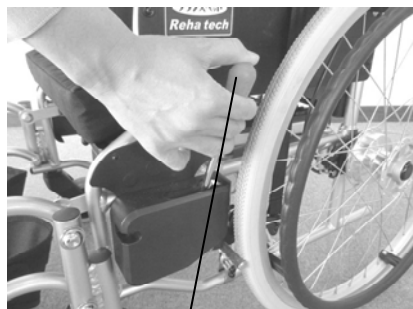
## 5-13. 車いすの乗り方

以下の方法はほんの一例です。利用者の症状・使用環境などにあわせてご利用ください。

- (1) タックルブレーキがかかっていない場合は、両側のタックルブレーキを手前に引いてかけます。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）

### ⚠ 警告

車いすに乗るときは、必ずタックルブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。



- (2) 両側のフットサポートを外側に倒してたたみます。



フットサポート








フットサポート

- (3) 車いすをしっかりと保持しながら、座面後方にお尻がくるように奥までしっかりと腰掛けてください。車いすに座ったらフットサポートを広げて足を乗せます。





フットサポートを広げる

<div style="text-align: center;">  <b>警告</b> </div>	
<p>車いすに座る際は、必ず座面の奥までしっかりと腰掛けてください。            タックルブレーキが解除できない、セーフティブレーキがかからないおそれがあります。            また座面前方に座ると重心が前になるため正常な座位がとれなくなり、転落の原因になります。</p>	

<div style="text-align: center;">  <b>注意</b> </div>	
<p>車いすに乗り移る際、フットサポートを折りたたまずに上に乗っても車いすは転倒しにくくなりますが、この動作を推奨するものではありません。</p>	
<p>折りたたんだフットサポートに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。</p>	
<p>レッグフレームに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。</p>	
<p>フットサポートを片足で踏まないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。</p>	
<p>フットサポートに飛び乗らないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。</p>	

## 走行上の注意

<p>(1) 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。</p> <p>(2) 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。</p> <p>(3) 溝や踏切の線路による落輪、キャスターの挟み込みには充分注意してください。</p> <p>(4) 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。</p> <p>(5) 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。</p>
--

<div style="text-align: center;">  <b>警告</b> </div>	
<p>走行中にフットサポートを踏まないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。</p>	

## 5-14. 車いすの降り方

以下の方法はほんの一例です。利用者の症状・使用環境などにあわせてご利用ください。

- (1) タックルブレーキがかかっていない場合は、両側のタックルブレーキを手前に引いてかけます。



タックルブレーキ（解除）



タックルブレーキ



タックルブレーキ（固定）

### ⚠ 警告

車いすから降りるときは、必ずタックルブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。



- (2) 両側のフットサポートを折りたたみます。



フットサポートを折りたたむ

### ⚠ 注意




折りたたんだフットサポートに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。

レッグフレームに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。



- (3) 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくりと車いすから降ります。



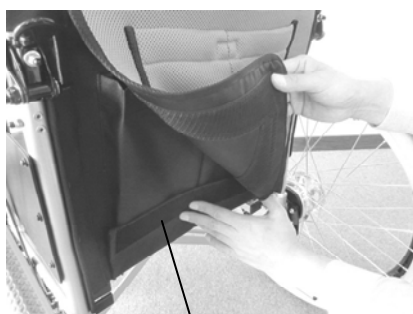
 注意	
車いすから降りる際、フットサポートを折りたたまずに上に乗っても車いすは転倒しませんが、この動作を推奨するものではありません。	
フットサポートを片足で踏まないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。	

## 5-15. メッシュシートの取り外し方、取り付け方

- (1) メッシュシートを取り外す時は、メッシュシート上部の面ファスナーをはずして、次にメッシュシート下部の面ファスナーをはずします。その後、メッシュシートを取り外します。






メッシュシート



面ファスナー



<div style="text-align: center;">  <b>注意</b> </div>			
<p>メッシュシートを取り外した後、洗濯する場合は、面ファスナーが露出しないように畳んだ状態で洗濯ネットに入れて行ってください。面ファスナーが露出した状態で洗濯を行うとメッシュ部分を傷めるおそれがあります。</p>		<div style="text-align: center;">   メッシュシート (畳んだ状態) </div>	<div style="text-align: center;">   メッシュシート (開いた状態) </div>
		<div style="font-size: 2em;">×</div>	<div style="font-size: 2em;">⊘</div>

- (2) メッシュシートを取り付ける時は、メッシュシートの中心部分を車いすに合わせます。



メッシュシート

ポケット



- (3) メッシュシートの下部の面ファスナーを合わせた後、メッシュシートの上部の面ファスナーを合わせます。



面ファスナー



## 5-16. 段の上り下り（介助者の操作）

- (1) 介助者は足元などを事前に確認して、十分な体勢をとってください。段差に対して直角に近づけてティッピングバーを前へ少し押し出すように踏み、同時にグリップを少し後ろへ引っぱるように押し下げて、キャスターを浮かせます。急に上げると利用者が驚きますので上げる前に伝えるようにしてください。
- (2) そのまま前に少し進み、そっと上段へキャスターを乗せて駆動輪が段差にあたるまで進みます。その際、キャスターが上段へ来ている事を確認してからゆっくり下ろしてください。
- (3) グリップを持って駆動輪を浮かし、上段へ押し上げます。その際、乗っている人の頭を介助者が胸や腹で支えながら押し上げると比較的楽で安心感もあります。
- (4) 段から下りる時は逆の手順で行ってください（下りる時は後ろ向きで行います）。



### ⚠ 注意

無理な力による段差の乗り越えは車いす本体の破損につながります。

無理な力による段差の下りかたは、車いす本体の破損につながります。

段差のあるところを下りるときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下りてください。車いすの破損や故障の原因となります。



## 5-17. 急坂の上り下り（介助者の操作）

- (1) 急坂を上の時は前向きで、下りる時は後ろ向きで行います。坂を前向きで下りると利用者が前へずり落ちる、前へ倒れる、だんだんスピードがでやすいなど、非常に不安定になります。介助者がバランスを失ったときも危険です。必ず下りる時は後ろ向きで行ってください。ただし、利用者自身で操作する場合は後ろ向きで坂を下りないでください。



## 5-18. 溝を越える時（介助者の操作）

- (1) 踏切など溝のある場合、溝に対して直角に近づけ段差と同じ要領でキャスターを浮かして進み、溝を越えてからゆっくりと降ろします。駆動輪は溝に落ちない程度浮かし気味で越えてください（駆動輪を上げすぎると利用者が前へ倒れたり転落することがあるのでご注意ください）。



## 5-19. 段差、傾斜の横断（介助者の操作）

- (1) 段差、傾斜の所を横切る場合、基本的には段差、急坂、溝で説明した要領で行ってください。どうしても横切らなければならない場合、片方へ傾斜した道路などでは、車いすが急に低い方向へ向いてしまう、利用者が低い方向へ倒れるので車いすも一緒に倒れるおそれがある、などの点にご注意ください。車いすの方向、利用者の傾きを十分注意しながら行ってください。



## 6. 保守・点検

長期にわたり本製品の本来の性能を維持するには、日頃の点検などの適切な管理が必要となります。使用するにつれてその時間の経過とともに部品の劣化や摩耗が進みます。点検を行うことにより、大きなトラブルを防止し、安心して使用することができます。

外観点検項目：目視あるいは手で外観の傷や変形などを確認する点検です。

- (1) 各部ネジゆるみや外れ
- (2) 各部フレーム接合部（溶接部）のヒビ割れや外れ
- (3) 各部の劣化や摩耗

使用中に不具合を発見された時には、ご使用を控えるか場合によっては使用を一時中断し、速やかに販売店またはお客様相談室に故障状況を報告し、修理を依頼することが適切です。安易にご自身による故障の修理などは絶対に行わないでください。

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

※修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

### ●各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

### ●消耗品、交換部品の確認

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください（下表参照）。新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡ください。

### ●タックルブレーキ、介助ブレーキの調整

定期的にタックルブレーキ、介助ブレーキの調整を行ってください。

### ●フットサポートのゆるみの調整

フットサポートがゆるんできたら増し締めをしてください。

## ⚠ 注意

交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながるおそれがあります。

キャスター、駆動輪、タックルブレーキ、介助ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

車いすは熱気、湿気に弱いいため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。



交換品名	交換時期
駆動輪のタイヤ	表面に溝がなくなったとき。
キャスターのタイヤ	表面の摩耗が著しいとき。ガタつくとき。
タックルブレーキ	タックルブレーキの動作に異常がみられたとき。
介助ブレーキ	介助ブレーキの動作に異常がみられたとき。
ブレーキワイヤー	ほつれ、サビが発生したとき。
引っ張りバネ	セーフティブレーキの動作に異常がみられたとき。
センサーベルト	ほつれ、切れ目が発生したとき。

## 7. お手入れ方法、保管方法

日常の汚れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。著しい汚れを落とす場合は専用クリーナーで汚れを拭き取り、乾いた柔らかい布で拭いてください。

金属部：著しい汚れを落とす場合は、金属用クリーナーで汚れを拭き取り、乾いた柔らかい布で拭いてください。



### ⚠ 注意

汚れを拭き取るのに、シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤を含んだものおよび、研磨剤、漂白剤などは使用しないでください。市販のクリーナーを使用するときは、一度目立たない所で試してから使用してください。変色、変質、商品を傷める原因となります。



乾燥機による乾燥は縮みの原因となりますのでおやめください。

#### ●フレームのお手入れ

フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。

水などがかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。

#### ●専用クッションのお手入れ

専用クッションのアウトークッションカバーのファスナーを開けると、インナークッションと木製板が中に入っています。

アウトークッションカバー、インナークッション、木製板はアルコール清拭可能です。

著しい汚れは、中性洗剤を水で薄め、布に染み込ませ、固く絞って拭いてから自然乾燥させてください。

アウトークッションカバーのみ手洗い可能です。手洗いの後は自然乾燥させてください。

#### ●メッシュシートのお手入れ

面ファスナーが露出しないように畳んだ状態で洗濯ネットに入れて洗濯してください。面ファスナーが露出した状態で洗濯を行うとメッシュ部分を傷めるおそれがあります。

#### ●アームサポート、グリップの樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

#### ●ハンドリムのお手入れ

ハンドリムの表面にキズを見つけた場合は、安全のため紙ヤスリなどで滑らかにしてください。

#### ●点検

清掃時は各部のキズ、亀裂、ネジなどのゆるみ、タイヤの表面を点検し、ゆるみがあれば増し締めを行ってください。

#### ●保管・収納について

収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。

フレームのサビや駆動輪のタイヤの劣化、キャストのタイヤの劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

### ⚠ 注意

長期間車いすを保管して動かさない時は、車いすの下に布などを敷いてください。キャストのタイヤやフットサポートのゴムが床に移行する可能性があります。



屋外で保管しないでください。車いすが雨に濡れるとサビ、各部の劣化の原因となります。

高温の場所（夏場の車のトランクなど）に保管しないでください。樹脂部品の変形などの原因となります。



## 8. こんなときには

車いすをご使用されていて、『故障かな?』と思ったら、弊社または販売店へと連絡される前に、下記項目をご確認してください。

症状	チェック項目	対処方法
車いすが まっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へキャスト ーが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作して ください。自走用の場合は、傾斜面の低い側 に当たる駆動輪をより強く回してください。 介助用の場合は、傾斜面の低い側に当たるグ リップに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありません か。キャストの軸の回転がスムーズで すか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼 してください。
	駆動輪、キャストの計4輪がきちんと 地面に接地していますか。	
タックルブレーキが かからない。 セーフティブレーキ がかからない。	駆動輪のタイヤが摩耗していませんか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼 してください。
	タックルブレーキのタイヤ押さえが駆動 輪に当たっていますか。タックルブレー キがガタついていませんか。	
	専用クッション以外のものを使用してい ませんか。	専用クッションを使用してください。
	センサーベルトおよび引っ張りバネが摩 耗、切断していませんか。	直ちに使用を中止し販売店または弊社お客様 相談室へ修理を依頼してください。
	利用者が専用クッションの手前に腰掛け ていませんか。	座面の奥までしっかりと腰掛けてください。 そうしない場合、セーフティブレーキが正常 にかからないおそれがあります。
	体重が約40kg以下（持ち物、衣類など を含む）の方が、使用していませんか。	使用最低体重は約40kgを目安としておりま す。体重が軽すぎる場合は、セーフティブレ ーキが正常にかからないおそれがあります。
タックルブレーキが 解除できない。	センサーベルトが専用クッションの上に ありませんか。	専用クッションを正常な位置においてくださ い。
	体重が約40kg以下（持ち物、衣類など を含む）の方が、使用していませんか。	使用最低体重は約40kgを目安としておりま す。体重が軽すぎる場合は、移動の際にタッ クルブレーキが正常に解除できないおそれが あります。
介助ブレーキがかか らない。	利用者が専用クッションの手前に腰掛け ていませんか。	座面の奥まで深く腰掛けてください。
	ワイヤーチューブが折れ曲がったり、引 きかかったりしていませんか？	インナーワイヤーがスムーズに動くようにワ イヤーチューブの取り回しを修正してくださ い。改善が見られない場合は、販売店または 弊社お客様相談室へ修理を依頼してくださ い。
	ワイヤーがゆるんでいませんか。	
セーフティフットサ ポートが機能しな い。	レッグフレームの部品に破損はありませ んか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼 してください。
	レッグフレームのネジなどに脱落はあり ませんか。	
異音がする。	身の回りの物が車いす本体や駆動輪に干 渉していませんか。	身の回りの物は駆動輪など回転する箇所と干 渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分から音がしていませんか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼 してください。
	ネジなどがゆるんでいませんか。	
	摩擦音がしていませんか。	

## 9. 製品の仕様



※寸法の単位（mm）です。

製品の寸法には多少の誤差があります。

製品仕様は品質改善、製品追加のため予告なしに変更することがあります。

項目	寸法（mm）
全長	970/980（折りたたみ）
全高	860/660（折りたたみ）
全幅	645/445（折りたたみ）
前座高／後座高	405（前座高）／410（後座高）
シート幅	385
バックサポート高	400
アームサポート高	240
グリップ高	840
バックサポート角度	94°
キャスター	5 インチ
駆動輪	22 インチ
重量	20kg（専用クッション含む）／17kg（専用クッション除く）
耐荷重	100kg（積載分含む）
フレーム材質	アルミ軽合金
シート材質	ナイロン
専用クッション材質	クッション部：ウレタンフォーム クッションカバー：ナイロン インナーカバー：ナイロン ベース材：合板

## 10. 耐用年数

耐用年数とは消耗部品の交換や修理を繰り返し行うことで品質、安全性が維持できる期間です。指定された保守点検を実施し、指定された使用条件下で使われた場合の耐用年数は 6 年です。但し保守点検状況により差異が生じることがあります。耐用年数の 6 年経過後使用される場合は販売店または弊社にて点検していただきますようお願いいたします。

※耐用年数は保証期間ではありません。

## 11. アフターサービス

### 保証書および保証期間について

保証書：所定事項の記入および記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間中に修理を依頼される場合：保証書の記載内容に従って修理いたします。

保証期間を過ぎて修理を依頼する場合：修理すれば使用できる場合は、希望により有料で修理いたします。

### 修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に取扱説明書をよく読み、再度点検の上、なお異常がある場合は、販売店または弊社お客様相談室へ連絡してください。

ご連絡いただきたい内容・・・ご住所、ご施設名、ご氏名、電話番号、型式名、販売店、  
お買い上げ日、故障または異常の内容（できるだけ詳しく）

### お客様相談室

弊社の商品は厳格な検査を経て納入致しておりますが、万一不具合な点がございましたら、販売店または弊社お客様相談室までお問い合わせください。

お客様相談室



フリーダイヤル：0120-39-2824

受付時間：月～金曜日 9時～12時 13時～17時

（土、日、祝祭日、年末年始、弊社指定の休日などは除く）

製造元：フランスベッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148

## 12. 保証書

### 保証書

この製品は、厳格な品質管理及び検査を経てお届けしたものです。  
お客様の正常なご使用状態で万一故障した場合には、本保証書記載内容により  
お買い上げの販売店が受け付け致します。

※ 修理は、お買い上げの販売店に必ず本保証書を提示の上、ご依頼下さい。

※ 本保証書は再発行致しませんので、大切に保管して下さい。

フランスベッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148番地5  
TEL 042 (543) 3111 (代表)

型 式	転ばないイス		
保証期間	お買い上げ日	年 月 日	から1年間
お 客 様	ご住所 〒		
	ご氏名		
	電話番号		
	販売店		

### ◇◇◇ 保証規定 ◇◇◇

- 保証期間内に正常な使用状態において万一故障した場合には、無償修理致します。  
お買い上げ日及び販売店名は、納品書又は領収書等で確認させていただきますので、保証書とともに紛失しないよう保管願います。
- 次のような場合には、保証期間内でも有償修理になります。  
(イ) 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。  
(ロ) お買い上げ後の転落、落下等による故障及び損傷。  
(ハ) 火災、地震、風水害、落雷やその他の天災地変、公害、ガス害、塩害等による故障及び損傷。  
(ニ) 電源を使用する製品においては、指定電源（日本国内仕様）AC100V 50/60Hz以外での使用や異常電圧による故障及び損傷。  
(ホ) 本保証書のご提示がない場合。  
(ヘ) 本保証書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入がなく、納品書又は領収書等にて必要事項の確認ができなかった場合。  
(ト) 保証書の記載事項の字句を書き替えられた場合。  
(チ) 消耗部品の取替え及び点検等の費用。  
(リ) 離島や離島に準ずる遠隔地については、弊社規定に沿った訪問に要する実費を申し受けることがあります。
- 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
- 法的責任  
この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問合わせ下さい。
- 保証の対象  
本体及び付属品。但し、消耗部品、縫製部品、別売部品は除く。
- 免責  
本製品の故障の放置又はその使用によって生じた、直接、間接の損害についての保証は、一切その責を負いませんので、予めご了承下さい。

修理の記録

発売元

フランスベッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148

※ 車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。